

宇田川文海 いづみ 小説家。弘化五年二月二十四日江戸生れ、昭和五

年一月二十六日歿（二八八一—一九二〇）。法名愚海。別名烏山兼二。號半痴、半

痴居士、運籌書屋主人、金齋、除々庵主人、雨の家裡遊等。僧侶とは

ると明治二年還俗。六年秋田で『返邇新聞』主筆、八年大阪で『浪花

新聞』創刊、その後『大阪朝日新聞』、『大阪毎日新聞』等の記者を

務め、傍ら歴史小説を執筆。關西又壇の重鎮。

著書『春霞築波曙・第貳編』（校刷、明治十五年二月大阪・和田喜二

郎編輯出版）、『春霞筑波曙・第參編』（かうえう、明治十五年二月大阪

・和田喜二郎編輯出版）、『春下斷續夢の手枕』（校止、明治十六年九月二十

日京都・駿々堂本店）、『春宵閑話新街夜作樂』（同、明治十七年六月十

六日大阪・駿々堂）、『一讀笑法螺』（同、明治

二十一年九月二十日大阪・駿々堂本店）、大東樓愚樂人作『一讀笑法螺

物語』（同、明治二十一年十一月十日大阪・駿々堂本店）、『同窓青

年の友・中編』（明治二十二年八月二日金港堂）、『おとし心きや』（明

治二十二年七月十九日大阪・偉業館。八月二十三日序）、『小説貝子

七』（書籠、明治二十五年二月十日、籠・四月二十日大阪・岡島寶

文館）、『契沖阿闍梨』（明治二十七年十一月十六日博文館『少年文

學』）、『助一條』（内題『助け一條』大正八年八月五日奈良・道友

會編輯部『道友叢書』）等。